

令和7年度登録要約筆記者認定試験
要約筆記技能試験—OHCロールによる要約筆記—

「老朽化」

昨年1月、八潮市の県道交差点で発生した大規模な道路の陥没事故は、記憶に新しいことでしょう。全面復旧までは5年以上を要し、総工費は何と約300億円に達する見通しと発表されています。全国的な水道や道路の老朽化は他人事ではなく社会全体で重要な課題となっています。

私たちの生活を支えている現在のインフラの多くは、高度経済成長期に集中的に整備されました。これらは完成から50年以上が経過しており、上下水道、橋やダム、トンネルは、金属の腐食やコンクリートのひび割れなど、経年や環境の影響で確実に、しかも急速に老朽化することが懸念されています。

そして、報道されるレベルではないものの、小規模の事故や障害は日々起こっています。しかも劣化に耐え切れずにひとたび崩壊すると、人命を失う重大事故や、生活に支障をきたす大問題になりかねません。つまり、このまま対策がなされなければ、私たちの暮らしに重大な影響をもたらす大事故に発展する恐れがあるのです。

特に水道管は、経年劣化により腐食や破損が進み、漏水や水質汚染のリスクが高まっていますので要注意です。先の八潮のように一度大きな崩壊が起ると、交通の安全性や生活の快適さを損なうだけでなく、莫大な修復費用の発生や経済活動の停滞を引き起こします。国土交通省によると、日本の全下水道管約50万キロメートルのうち、50年の標準耐用年数を超えたものが約4万キロメートルあり、18年後には全体の4割が寿命を迎えるそうです。

従来工法での下水道管点検や更新工事は、大規模な人員確保や周囲の使用制限等も必要でしたが、現在は衛星やAIを利用した点検や新しい素材での補修が可能となり、人員、金銭の両面でより負担のない工法が開発されています。喫緊の課題は、耐震、耐久性の高い新技術の導入や定期的な点検、修繕を強化し、未然に事故を防ぐことです。インフラの維持管理は、安心して快適な暮らしを守るために不可欠であり、即急な対策が求められています。

令和7年度登録要約筆記者認定試験
要約筆記技能試験—OHCロールによる要約筆記—

「脱毛」

近頃は、電車の広告などでも「キッズ脱毛」などという言葉を目にする機会が増えたように感じます。毛深いことで友だちからいじめられたり、水着になるのを嫌がるなどの悩みを抱えるわが子に対し、なんとかしてあげたいと脱毛を検討する親御さんが増えているのかもしれませんが。

私の働く美容クリニックでは、数年前まで脱毛の施術対象は高校生以上でしたが、技術進歩で開発された、痛みも少なく、短時間で施術可能な「蓄熱式レーザー」の導入を機に、だれでも施術を受けられるようになりました。

クリニックにいらっしゃった小学校1年生の娘を持つ母親は、娘が学校で毛深さを友人にからかわれて悩んでいるのを知り、自分も同じように思い悩んだ経験があったことから脱毛をさせることにしたと話していました。一方、小学校3年生の男の子は、一年前から鼻の下のひげを気にして、恥ずかしさからマスクを外せなくなってしまいました。両親は、脱毛による肌トラブルが心配で施術を受けさせるかどうか悩んでいるそうです。

うちの子はまだ子どもだから大丈夫だと思っても、体毛を気にして勝手にかみそりを使い傷だらけになり、慌ててクリニックに駆け込んできたケースもあります。ですから、小学校3～4年生くらいになったら、すぐには気にならなくても正しいケアの仕方や、脱毛という選択肢があることなどを伝えてあげてください。そうすると、困ったときに両親に気軽に相談できる雰囲気ができるのだと思います。

うちの院長は、子どもの脱毛は美容ではなく心のケアで、多感な時期の悩みを取り除き、楽しく過ごさせてあげたいという親御さんのニーズがあつてのキッズ脱毛だといつも話しています。お子さんが悩んでいる時には、まだ早いと突き放さず、心に寄り添ってじっくり話をしてください。毛深さがコンプレックスや自信のなさ、人間関係の難しさなどにつながっているのであれば、脱毛は心の悩みを解決する一つの手段なのだと私は思います。